



学校だより

—しなやかで、たくましい

心とからだを育てる船二小—

令和6年9月2日（月）No.5

江戸川区立船堀第二小学校 校長 則岡 小織

プロセス 目標を決めて過程を大切に

校長 則岡 小織



夏休みが終わり、子供たちの元気な声が学校に戻ってきました。大きな事故や怪我もなく楽しく過ごした様子が子供たちの笑顔からうかがえます。この笑顔とやる気を大事にして、子供たち一人一人が大きく成長できる充実した2学期になるよう、夏の研修に励み見聞を広めてパワーアップした教職員で取り組んでまいります。

さて、この夏はオリンピックで盛り上がりました。期待に応じて力を発揮した選手もいれば、日本記録や自己ベストを出しながらも入賞できなかった選手もいました。また、ハラハラドキドキした逆転金メダルなど、どの競技にもドラマがあり、私たちに感動を与えてくれました。勝つために技を組み替える判断力やほかの選手に配慮する心遣い、目標達成に向けてのたゆまない努力、その過程で受けた支えや応援への感謝の気持ち、それらを選手は大切にして自身の力を高めてきたことが素晴らしいと感じます。目標に向けた過程が充実していたからこそ選手たちのうれし涙や悔し涙が輝くものであり、次につながるものだと思います。五輪憲章には、「オリンピックは国と国との争いではない」との趣旨の一文があります。つまり、オリンピックは選手同士が世界最高の技で競い合う場です。しかし、時として私たちは、どの国が何個のメダルを獲ったという誤った見方をしてしまいます。メダルより「人」が輝くことが大切であることを子供たちにも感じてほしいと思いました。選手たちは4年後の2028ロスオリンピックに向けて動き出しています。経験から得たことを生かして目標に向かう力強さを子供たちが学び、2学期をどう過ごすかを考えて充実した日々を送ることができよう支援していきます。

今月は、オリンピックつながりもあり、パラスポーツ体験（車いすバスケ・シッティングバレー・ボッチャ）を1, 3, 4, 5年生で実施します。学校公開では、1年生の「ボッチャ体験」を行います。また、アンサンブル・ルヴァンによる校内音楽鑑賞教室も予定しています。スポーツや音楽の体験が「楽しかった」「よかった」だけに終わらず、心に深く届き、自分の心と向き合い考えるきっかけになったらと思います。

4月に実施した「令和6年度全国学力・学習状況調査」の結果が出ました。対象児童が異なるため点数による単純比較はできませんが傾向として捉えることはできます。正答率は「国語」「算数」共に全国・東京都の正答率を上回りました。「国語」では、漢字を文の中で正しく使うこと、文中における主語と述語の関係を押さえる力に課題が見られました。漢字や主語・述語の関係を習っただけ、覚えただけでなく実際に使える力をつけていく必要があります。また、読み取ったり考えたりしたことを書くこと、必要な情報を取り出すことやその表現の効果を考える力もさらに付けていくことも課題です。「算数」では、図形や単位量当たりの大きさの習得、データ活用に課題が見られました。「国語」も「算数」も、日常生活を絡めながら、知識・技能を活用する力、表現する力が身に付くよう授業改善に結び付けていきます。

「質問調査」では、学習に主体的に取り組む児童ほど、教科の正答率、自己有用感、規範意識が高く、逆に、取り組み姿勢が受け身の児童ほど教科の正答率、自己有用感、規範意識が低い傾向にありました。この結果を踏まえて、子供たちが自己有用感をもって学校生活を送ることができるよう改めて子供主体の教育活動に取り組んでまいります。今学期もご協力のほどよろしくお願いします。